



オカタツナミノソウ

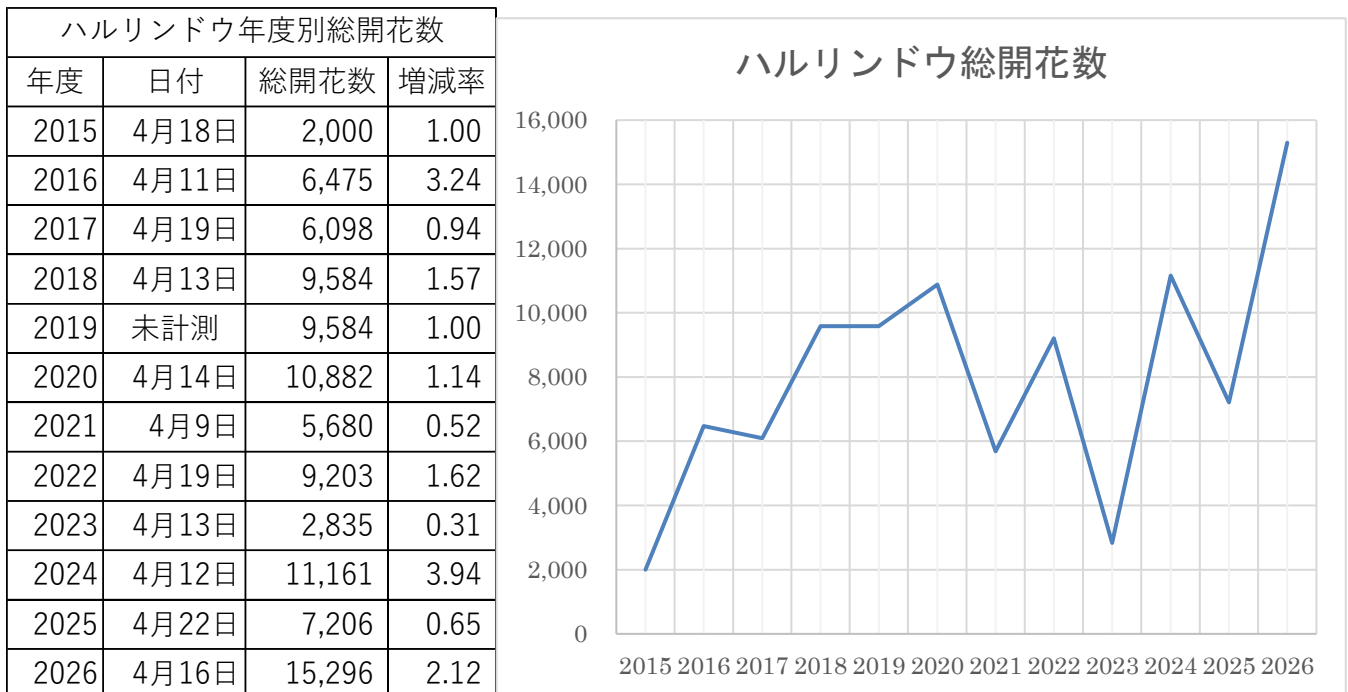
1、2026年度モニタリング報告－1

葦毛湿原ではミカワバイケイソウやカザグルマの開花が終わり、トキソウも終盤を迎えています。今年はハルリンドウの開花数が大きく増加しましたが、ミカワバイケイソウの開花数は激減し、過去2番目に少ない開花数になりました。また、カザグルマの開花数は昨年の約1.2倍になり過去最高になりました。

1) ハルリンドウ

葦毛湿原のハルリンドウの昨年度の総開花数は4月22日の7,206輪でしたが、今年は4月16日の15,296輪で、昨年の2倍以上で過去最高になりました。今年の開花時期は平年並みで、4月中旬が開花のピークになりました。ハルリンドウは2020年以降、隔年で開花数が増減するようになり、今年も予想通りの結果となりました。増減しながらも、右肩上がりで増加しているようにも見えるところから、来年は減少しても12,000輪程度、再来年には20,000輪近くになるかもしれません。

今年、ハルリンドウは多数の花を咲かせる大株のものが目立ちましたが、株ごとの開花数は記録していないので、正確なデータはありません。



地点別開花数では、前年（2025年）とほとんど変わらない地点、前年より増えた地点、前年の半分ほどに減少した地点等様々な場合があります。各地点の開花数の変化は次頁のハルリンドウ地点別開花数に示しましたが、かなりばらつきがあります。代表的なものとして開花数が変わらないのはJ地点、大きく増えたのはA・K・I・N地点、減少したのはH・O地点です。地点ごとでは、変化がなかったり、増減したりしています。

が、葦毛湿原全体としては正確に隔年で増減を繰り返しています。なぜ、このような開花パターンをとるのかは分かりません。葦毛湿原では、毎年湿原中央部で白花のハルリンドウが咲いていますが、今年は4輪中3輪が盗まれてしまいました。毎年同じ場所に咲き多くの方が楽しみにしていましたが、種子を残すこともできず残念な結果になりました。

ハルリンドウ地点別開花数				
地区	2024	2025	2026	増加率
D E	0	3	0	0.00
M	2,664	2,784	6,570	2.36
N	2,747	1,258	4,265	3.39
P	4	3	0	0.00
K	223	153	621	4.06
B	44	22	64	2.91
H	66	119	87	0.73
G	0	7	0	0.00
S	0	0	0	0.00
A	1	2	33	16.50
J	4,537	2,082	2,041	0.98
O	61	358	104	0.29
I	814	415	1,511	3.64
合計	11,161	7,206	15,296	2.12



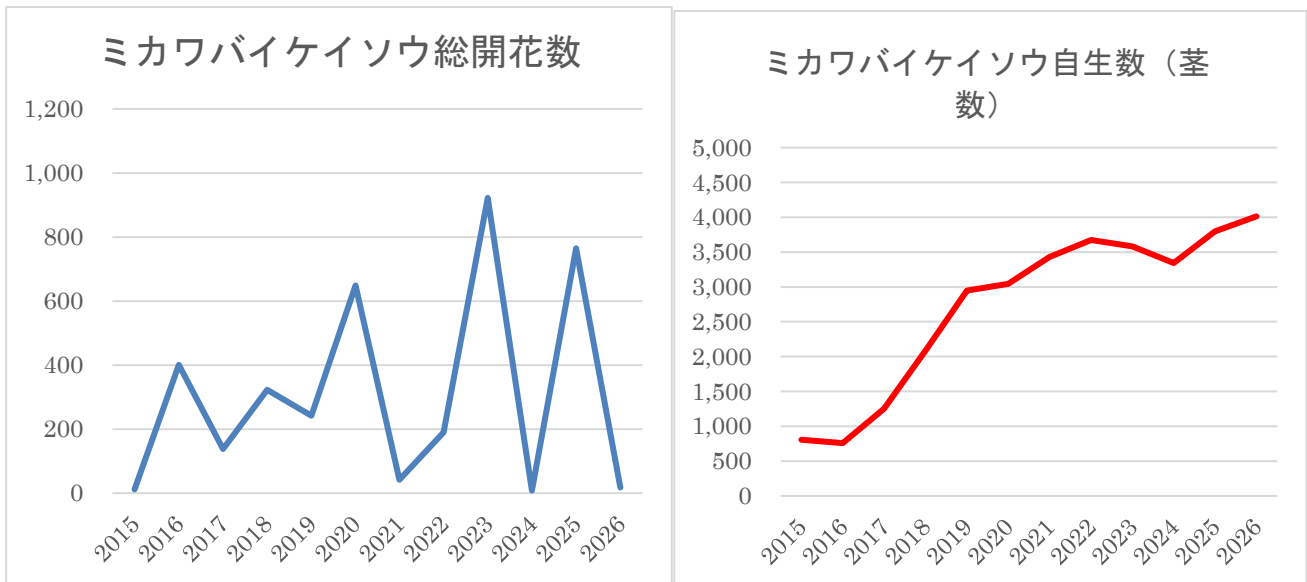
盗掘された白花のハルリンドウ

2) ミカワバイケイソウ

これまでのミカワバイケイソウの開花数は2023年の922花が過去最高でした。2020～23年は3年で大きく増減しましたが、2023年以降は隔年で大きく増減するようになりました。昨年の2025年は765花で多かったのですが、今年は20花以下で少なくなると予想していました。予想通り、今年の開花は18花で、過去2番に少ない開花数になりました。開花数は昨年の2%程度で極端に少なくなりました。開花の内訳としては、国有林内は3花、指定地内は15花でした。開花は隔年での増減がはっきりしてきましたので、来年の開花数は最高記録の922花を超えるかもしれません。

自生数は株の特定が難しいので茎の本数を計測しています。2016年から2019年までは右肩上がりが増えましたが、2020年からは増え方が緩やかになり、今年は過去最高数になりましたが、増加数は少なく、わずかに増減を繰り返して安定しながらも、緩やかに増加しているように見えます。

ミカワバイケイソウの総開花数と自生茎数						
年	国有林内		指定地内		全体	
	総開花数	自生数	総開花数	自生数	総開花数	自生数
2015			12	808	12	808
2016	318		83	758	401	758
2017	86	639	52	611	138	1,250
2018	252	1,400	71	687	323	2,087
2019	116	2,249	126	698	242	2,947
2020	526	2,188	123	858	649	3,046
2021	14	2,701	28	730	42	3,431
2022	73	2,797	117	877	190	3,678
2023	600	2,807	322	773	922	3,580
2024	5	2,689	3	654	8	3,343
2025	630	3,072	135	724	765	3,796
2026	3	3,320	15	693	18	4,013



ミカワバイケイソウ開花状況（2025年5月1日）

3) カザグルマ

カザグルマは2023年に初めて開花数が減少しましたが、そこから少しずつ増え、今年は昨年より20%ほど増えて今後も右肩上がりが増えそうな状況です（次頁カザグルマ総開花数参照）。

開花数は2025年5月7日では389輪だったものが、2026年は4月29日には468輪で過去最高になりました。地点別では開花数に異なった増減パターンが見られます。L地点は昨年115輪だったものが、今年は214輪とほぼ倍増しました。しかし、2番目に多くの花が咲くJ地点は、2025年は197輪、2026年は195輪でほとんど変わりません。他の地点は開花数そのものが少なく比較し難い状態ですが、増えたところも減ったところもあります。増加分のほとんどはL地点での増加でした。

カザグルマの総開花数は、2014年からの調査ではきれいな右肩上がりの直線に近い増え方をしていましたが、2023年に初めて減少し、そこから少しずつ増えています。このまま右肩上がりが増えるのか、数年パターンで減るのか、継続して観察する必要があります。



カザグルマ (2025年5月7日)



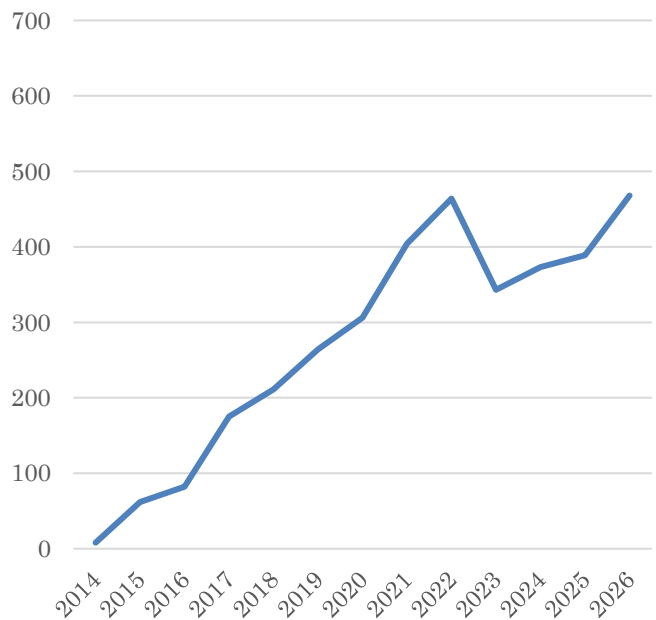
カザグルマ拡大 (2025年5月4日)

4) 葦毛湿原全体の開花パターン

葦毛湿原では、ハルリンドウ、ミカワバイケイソウ、カザグルマの開花数を10年以上継続して計測しています。この3種の開花パターンは若干のずれと増減の幅の違いはありますが、大規模植生回復作業を始めてから8年間程度は右肩上がり増加し、これ以後異なったパターンに移行したようです。

年度	総開花数
2014	8
2015	62
2016	82
2017	175
2018	211
2019	264
2020	306
2021	404
2022	464
2023	343
2024	373
2025	389
2026	468

カザグルマ総開花数



2. カエルの産卵行動

葦毛湿原では春になるとアズマヒキガエル、タゴガエル、シュレーゲルアオガエル、ツチガエルが産卵行動を起こします。アズマヒキガエルは2月末頃再生した池に産卵して大きな卵塊になっていますが、他のカエルの卵は湿原内ではたまに見かける程度です。

5月5日に湿原中央の旧水田でミズゴケを除去して池状に再生したところで、シュレーゲルアオガエルのメスの背中にツチガエルのオスが乗っているのを見つけました。

カエルのオスは産卵行動で何にでもしがみつきますが、葦毛湿原では初めて見ました。



シュレーゲルアオガエル(♀)・ツチガエル(♂)